学校経営推進費　事業計画書

１．事業計画の概要

学校名	大阪府立吹田東高等学校
取り組む課題	キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現）
評価指標	①希望進路実現率の向上。国公立、難関私立大、看護医療系等の進学実績の向上。 ②学校教育自己診断における該当項目の肯定率の向上。 ③授業アンケートにおける生徒の興味・関心の深化の向上。
計画名	主体的に考え行動する力を育てる学校づくりプロジェクト

２．事業計画の具体的内容

学校経営計画の中期的目標	新しい校舎を活かした組織的な教育活動を通して、主体的に考え行動する力を育てる。 １　「主体的・対話的で深い学び」を実現。授業形態の工夫や ICT 機器の効果的活用 （３）　一斉学習・個別学習・協働学習を組み合わせた授業形態の工夫を推進 ２　高い志等をもてる学習支援・進路保障 進路について自ら目標を立て実現に向かう力を育成。大学との連携や外部資源の積極的な活用を行う。 ３　豊かでたくましい人間性 （２）　グローバル化・情報化が加速度的に進展する社会で通用する人材を育成するため、３年間の LHR や総合的な探究の時間、国際理解教育を推進しながら、SDGs の視点も踏まえた問題発見能力・解決能力や思考力・判断力・表現力を育成する。 ５　人材育成 （３）　働き方改革の推進を行い、教職員同士の対話を深める時間や、生徒と向き合う時間を増やす。
事業目標	本校の生徒は真面目で素直、大人の言うことをよく聞き、指示に従うことができることが強みである。一方、21 世紀型スキルと言われる批判的思考力、意思決定力、コミュニケーション力に課題があり、強みを活かしつつ、これらの力を育てることが急務である。生徒の主体性を伸ばす取組みには、環境設備の充実に加えて、教員のスキルや時間的な余裕も必要となる。 **①「考える力やコミュニケーション力・発信力の伸長」** 全教員が Chrome book を持ち、継続的な授業改善を実施する。すべての授業で、一斉・個別・協働を組み合わせた主体的・対話的な授業展開を行うことで生徒の批判的思考力・コミュニケーション力を伸ばす **②「教員の創造性・対話力の育成と集合知の結集」** 生徒が主体的に考え行動する力を育てるためには、教員の創造性や対話力の育成に加え、時間的余裕も必要となる。　業務改善を行うことで、教員のスキルアップのための研修体制を確立し、集合知を結集させる。 **③「主体性を伸ばす PBL プログラムの開発、実施」** 上記①②を通してインタラクティブで機能的な授業を展開する。 併せて「答えのない問いを解決する力」や「一人一人が輝くリーダーシップ」が求められる時代において、大学教育では定着しつつある「問題解決型学習（PBL）」の本校版を開発、実施。生徒・教員共に主体的に考え行動する学校づくりを実践する。

<table>
<tr><td rowspan="7">取組みの概要</td><td colspan="2">整備する設備･物品</td><td>・Chrome book　20 台
・ワークテーブル・講演台・ホワイトボード等
・生徒向け講座設計費　　・教員向け研修費用</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取組内容</td><td>前年度</td><td>・ 教職員全員参加型の２回のワークショップを実施、吹田東高生の強み・弱みを洗い出し、目標を「主体的に考え行動する力を育てる学校づくり」と設定。
・ 双方向通信を使用した職員会議や、グループウェアを使用した授業方法の校内研修会等を通して、教員の ICT スキルを向上。
・「総合的な探究の時間」では SDGｓを切り口に大学連携や企業連携を通じて、グループによる課題研究と発表を実施。あわせて双方向通信を使用し国内各地からの社会人講演会を実施した。
・ 上記の取組みを経て、学校教育自己診断生徒アンケートにおいて、「吹田東高校に進学して良かった」は 76.0%⇒85.7%へ、「将来の進路や生き方について考える機会がある」は 74.5%⇒81.8%へ上昇した。</td></tr>
<tr><td>初年度</td><td>・「総合的な探究の時間」を探究ゼミと位置づけ、教員の専門科目ごとに少人数展開の探究活動を実施。生徒による成果報告会の実施。
・ 大阪府教育センターの「パッケージ研修支援」事業を基本に、ChromeBook を活用し、双方向型の対話を通して生徒が主体的に学び表現できる授業コンテンツを検討し、研究授業・研究討議を実施。
・ GIGA　SCHOOL 委員会を中心に、ICT を使用した授業を推進することで、生徒の理解力向上をはかる。全教員が PC を活用した授業を行い、オンライン上での課題のやり取りを行えるようにする。
・ 教職員の創造性・対話力の向上のためのワークショップを開催し、スキルを向上させる。業務改善を進めるとともに。職員会議や各種会議のペーパーレス化と可視化を行う。
・ 授業改善と教員討議を通して「吹田東高校生に必要な PBL プログラム」を大学・関連会社と共同開発。</td></tr>
<tr><td>２年め</td><td>・「総合的な探究の時間」の「探究ゼミ」を提携大学と連携し、生徒の研究手法や発表方法を深化させる。生徒による成果報告会の実施。
・ 校内公開授業を促進し、生徒と教員が ICT を活用することにより、双方向型の対話を通して生徒が主体的に学び表現できる授業実践を全教科で一般化させる。
・ 希望する生徒対象に「吹田東高校の PBL プログラム」を大学・関連会社と共同開発し開講。
・ 上記講座に教員も参加し、「批判的思考力を鍛え、対話を通して能動的に学び、発表する能力」を育成する指導法について学び、授業で実践する。
・ 本校の取組みと成果を府立学校に向けて報告会等で発信する。</td></tr>
<tr><td>３年め</td><td>・「総合的な探究の時間」全体を提携大学と連携し、生徒の研究手法や発表方法を深化させる。全校規模での生徒による成果報告会の実施。
・ 双方向型の対話を通した主体性を育てる授業実践を事例集としてまとめる。
・ 生徒対象の「吹田東高校の PBL プログラム」を大学・関連会社と連携し、前年度のプログラムを改善し開講。
・ 上記講座に教員も参加し、「批判的思考力を鍛え、対話を通して能動的に学び、発表する能力」を育成する指導法について学び、授業で実践する。研究事業・研究討議を実施。
・ 本校の先進事例に対する視察・見学の受け入れや研修を年間２回以上行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">取組みの主担･実施者</td><td>主担：　校長・教頭・首席を中心に「GIGA　SCHOOL 委員会」「総合探究委員会」「観点別学習評価委員会」の３つの委員会を関連付けながら進める。
実施者：全教員</td></tr>
</table>

成果の検証方法と評価指標	初年度	① 国公立大学及び関関同立・現役延べ合格者数　35 名／320 名以上（R1 入試：24 名／R2 入試：34 名） ② 学校教育自己診断（生徒）における授業満足度 70%（R2：68.1%） ③ 学校教育自己診断（教員）における「授業方法について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を 80%、うち強い肯定を 20%以上（R2：76.7%／11.7%）にする。 ④ 授業アンケートで「授業に興味関心を持つことができた」の平均値を 3.20 以上（R1：3.10／R2：3.17） ⑤ 「主体的・対話的」な授業の実践率を 60%以上にする。
	2年め	① 国公立大学及び関関同立・現役延べ合格者数　40 名／320 名以上（R1 入試：24 名／R2 入試：34 名） ② 学校教育自己診断における授業満足度 72%（R2：68.1%） ③ 学校教育自己診断（教員）における「授業方法について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を 85%、うち強い肯定を 30%以上（R2：76.7%／11.7%）にする。 ④ 授業アンケートで「授業に興味関心を持つことができた」の平均値を 3.25 以上（R1：3.10／R2：3.17） ⑤ 「主体的・対話的」な授業の実践率を 80%以上にする。
	3年め	① 国公立大学及び関関同立・現役延べ合格者数　40 名／280 名以上（R1 入試：24 名／R2 入試：34 名） ② 学校教育自己診断における授業満足度 75%（R2：68.1%） ③ 学校教育自己診断（教員）における「授業方法について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を 90%、うち強い肯定を 40%以上（R2：76.7%／11.7%）にする。 ④ 授業アンケートで「授業に興味関心を持つことができた」の平均値を 3.30 以上（R1：3.10／R2：3.17） ⑤ 「主体的・対話的」な授業の実践率を 100%にする。